

◇ 令和6年度 指定管理者事業評価書

施設名	矢倉まちづくりセンター		指定管理料	利用料金	支出	経理の状況	施設運営の方針
施設所管課	まちづくり協働部	まちづくり協働課	初年度	18,147,000円		17,608,820円	水道光熱費が、自販機のためのかくなった。利用者へのサービス向上と、利用件数のUPを図り事業拡大に努める。
施設HPアドレス	http://www.machikyouto/vagura/		2年目	18,189,000円		17,025,915円	自販機の電気代は取替により半分ほどになった。法定福利費UP、修繕費交換、概ね健全。
指定管理者名	矢倉学区未来のまち協議会		3年目	19,145,679円		18,098,573円	夜間管理費、水道光熱費のUPが見込まれるため節電に取り組む。
指定期間	令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日		4年目	18,291,655円		17,719,812円	令和5年8月頃に飲料の自動販売機を撤去した事で節電効果発揮。
評価対象期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		5年目	18,459,650円		18,222,080円	センター事業参加者が増えた分支出を押上げたが参加料収入も増、リースの値上げも影響

●総合評価の基準			○その他の項目	
5	☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆である	公募・非公募の別	非公募
4	☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆である	使用料・利用料金制の別	使用料
3	☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆である	指定管理者による運営開始日	平成29年4月1日
2	☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆である	施設の供用開始日	平成29年4月1日
1	☆	評価基準に☆が1以上ある	指定管理導入前の運営形態	供用開始と同時に指定管理者制度を導入

◆総括評価を概括した総合評価の所見(成果・改善等)

●指定管理者の総合自己評価…	☆☆☆☆	●市(施設所管課)の総合評価…	☆☆☆☆
年度の管理・運営に係る事業目標(年度当初に記入) コロナ禍後の影響は減少傾向、地域事業の再開も緩やかに改善し貸館の利用も頻度が改善してきた。利用者の立場に立った利便性の改善に積極的に取り組み、節度を維持しながらルール緩和で利便を追求。具体的内容については現センターでの利便や不満改善の追及取組と並行し、建替え移設を前提とした新施設の計画検討や設計、移設に伴う住民サービスの低下に対する手当の企画等。また、「担い手不足対策」を具体化し、遠い将来でも今現在から土台作りを急ぎ効果の確認を行いながら軌道修正も、早期かつ効果的に行う。今やっておかないと間に合わない事が山積していると判断して課題解決する。地球温暖化対策については、気候変動の影響による体調不良防止に重点を移し、具体策を実施して行く。また、その為の予算の有り方も追及する。		事業目標および管理・運営に対する評価(事業年度終了後記入) 地域の特色に合わせた事業展開を行うことで地域住民の交流の拠点として適正な管理運営に努められた。 また、消防訓練の企画・公式LINEの運営・施設等の維持管理など、利用者の目線を意識しながら、将来を見据え様々な事項に関して常に改良を試み、全体的な質の向上を図られていた。	
事業目標および管理・運営に対する自己評価(事業年度終了後記入) 当初鎮静化を予想した「感染症」は軽症化しているものの感染力は上がり、特に職員の健康管理は十分とは言えない。就業環境の向上に注力し、職務で利用者に迷惑をかけない体制を維持する。利用者利便については、休館日利用や館内飲食等事業の地域要望に寄り添う姿勢を重視し、施設管理、備品点検も重視して備品の入換も実施。団体利用者には年2回の説明会と消防訓練時に災害時の「役立つ情報と訓練」を提供している。目標は「美しい心と活力のあるまち・矢倉」のスローガン通り、5つの基本方針に沿った取組を行い、特に住民同士の交流の場づくりに傾注し、ふれあいまつり矢倉では昨年より3割以上集客が膨らんだ事や、敬老祝賀を共催した事により祝賀事業として参加人数は過去最高となった。また、子ども事業も参加者は増加、親子参加可が徐々に定着してきた。また災害予防にも注力し、訓練や講義は従来と大きく軌道修正し、年間通して避難所開設について現実的な想定で行動を想定できる様に工夫、参加者も増えた。		公募・非公募、使用料・利用料金制の導入についての効果の検証 (応募状況等(非公募の場合は、非公募理由等)) 地域の活動拠点である地域まちづくりセンターを中心として、地域における関係諸団体と連携し、地域住民とともに地域のまちづくりを包括しているまちづくり協議会が知見と経験を活かし、発展的に管理・運営ができるのは現指定管理者以外にはなく、非公募による選定とした。 (利用者数の状況等) 地域住民を対象とした公的な役割が大きく、市場原理に左右されることは望ましくないことから、使用料制としているが、利用者数の増加を目指し、地域の活動拠点等として利用していただけるよう努めていただいた。	

◇施設に係る主な指定管理業務
<ul style="list-style-type: none"> ・地域まちづくりセンターの運営および維持管理に関すること。 ・草津市立地域まちづくりセンター条例第1条の設置目的を達成するための事業の実施に関すること。

◆評価基準	
☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりもはるかに優れた内容である
☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である
☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、概ねその水準に沿った内容である
☆☆	仕様書・協定書等の基準は遵守し、若干の改善が必要な内容である
☆	仕様書・協定書等の基準を遵守しておらず、改善が必要な内容である

施設の管理運営に関する業務			
評価項目1	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価
	上半期評価	管理業務仕様書を遵守し、常に笑顔で接し、丁寧な説明を心がけて業務に当たっている。貸館件数は、一部の団体活動の休止に伴い、減免と有料共に減数しているが、善後策として利用者団体会議を通じて、利用時の利便について直接意見をお聞きし、快適に利用できる施設になるよう努めている。利用人数は昨年以上。	上半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆
	下半期評価	上期の業務基準を維持する事は当然ながら、自主教室の会員減少による相談にも親身に寄り添い、募集ポスターの掲示や市への相談、学区情報誌等で発行ごとに利用者団体の案内コーナーをつくり、活動内容紹介も今年度から固定化。また、今後建設が始まる新センターへの要望についても意見収集の機会を持ちアンケート化、計画に反映させた。	下半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆

施設および備品の維持管理等			
評価項目2	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価
	上半期評価	施設の老朽化が激しいが施設の安全に万全をきす様に職員に徹底し、不具合が発生すれば速やかな報告に努めている。備品の貸し出しについて利用者へ周知している。2階の会議室では老朽化に伴いブラインドの故障が増え、計4本の入換を実施した。また駐車場入口掲示BOXの手直しと清掃を実施し、事業の周知徹底にも活用。	上半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆
	下半期評価	古い施設だが愛着もあり、修復不可能な物はホームセンターで既製品を購入し職員の取替作業で改善、トイレの詰まりも職員で初期対応しつつ、業者等には出来るだけ早急に依頼し利便性の低下を防止。非常照明の不具合などの交換も実施。年2回の利用団体代表会議を実施し、施設利用ルールについても周知徹底を行ってきた。	下半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆

センター条例第3条に掲げる事業の実施に関する業務			
評価項目3	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価
	上半期評価	上半期は計画通り事業を実施。既存事業も参加者が増え、高齢者事業及び子ども事業の親子参加を進め、規模拡大に繋がった。特に昨年から注力している「担い手不足対策」を意識した参加者増は徐々に効果が実感出来ている。館外事業でも参加者は増え、事業内容のブラッシュアップは常に継続させている。	上半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆
	下半期評価	高齢者向けには「やすらぎ学級」「生涯学習大学」「高齢者のつどい“喫茶憩い”」を実施し毎年参加者は増加。年1回の会員募集は1日で定員を超える状況。児童対象は「わんぱくプラザ矢倉」「防災キャンプ」「なかよし広場」等を実施。年末には「餅つき大会」実施。学区情報誌では、各種事業の紹介や健康情報発信。SNSも公式LINEを活用。	下半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆

組織の管理運営および提出物等にかかる業務			
評価項目4	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価
	上半期評価	水道光熱費単価上昇に加え、初夏の気温上昇が早く、空調利用頻度も高まった。また、盛夏期は外気温が高く、換気の毎に空調機の負担が増え、電力消費の一因となった。また、今年は遮熱避難所対策として、事務所の冷気をホールへ誘導したこと、吹き抜け階段の空気入換の為に、電動ファンを設置した事で電力消費に繋がった。	上半期評価
	☆☆☆		☆☆☆
	下半期評価	職員の自己研鑽のため、コミュニティ事業団発信のセミナーや研修には積極的に参加した。市への提出期限についても情報共有の為に掲示や携帯スケジュールで対応、利用者の「声」収集には紙媒体以外のLINEアンケートも併用し、年代のバリエーションにも取り組んだ。	下半期評価
	☆☆☆☆		☆☆☆☆